



阿蘭陀白牝牛接痘渡来記

茨城県指定文化財 河口家蔵(古河歴史博物館寄託)
嘉永3(1850)年、牛痘法の啓発を目的に発行。牛に乗った牛痘児が痘瘡神を退治しようとする図。各地で多数の海賊版が発行された

主な疫病の歴史

日本国内

1827(文政5)年

コレラが大阪から西日本にかけて流行。1日に300人の死者が出たと記録される。江戸での感染は無し

1858(安政5)年

コレラの感染が長崎から始まり、江戸でも流行。江戸での死者は12万人にも及ぶといわれる

古河市

1850(嘉永3)年

長崎に伝来した牛痘法の接種は東日本にも普及。啓発のため、古河藩家老の子に牛痘法による接種を施術

1855(安政2)年頃

啓発活動の成果により、古河藩医による藩領村民への牛痘法による接種が行われる

1879(明治12)年

古河町内でコレラが流行

1894(明治27)年

古河町内で天然痘が流行。河口久齋が15日間に渡り牛痘法による接種を無料で行う

1939(昭和14)年

チフス・はしか・赤痢・天然痘などの流行病が、古河地方の人たちを悩ませる

2020(令和2)年

約3カ月間の学校休校や外出自粛など市民生活に大きな影響を与える

近代

2020(令和2)年

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう。日本でも約1万7千人に感染が広がる(6月15日時点)

※昭和初期までは、天然痘・はしかが全国各地でたびたび流行していました。

近世

古河に受け継がれる疫病との戦い

新型コロナウイルスの発生から半年以上が過ぎましたが、いまだに感染症を完全に封じ込めることはできていません。その昔、私たちが住むこの地域においても、ウイルスや細菌による強い感染症がたびたび流行し、人びとを脅かしていました。

当時も現代と同じように、医療従事者や地域の人たちが、疫病を克服するため奮闘したといわれています。ここでは、古河に受け継がれる疫病との戦いについて紹介します。



繰り返された疫病との戦い

ウイルス感染症の撲滅を目指していた20世紀。世界中の医師たちの努力によって根絶されたウイルスがありました。その名は「天然痘」。痘瘡ウイルスによるこの感染症は、強い感染力と極めて高い死亡率により世界中で流行を繰り返し、人びとの生活を脅かしてきました。

日本では、さまざまな治療法が試みられてきました。しかし、この病は一度治癒すると再び患うことがないため、痘瘡神によるものと信じられていました。一方、18世紀末のイギリスでは、外科医ジェンナーが牛痘法による天然痘ワクチンの開発に成功します。その後、このワクチンは世界中に広まっていきます。

牛になるといわれた牛痘法

江戸時代にはオランダ商館医シーボルトをはじめとする人たちが、牛痘法による接種を長崎でたびたび試みていました。しかし、数カ月もの船旅中に牛痘が腐食するため成功することはありませんでした。

その後、長崎出島の商館医モーンツケが成功させます。そして、牛痘法による接種は、江戸の種痘所などを経て普及していきました。

しかし、この牛痘法は「声が牛のように変わってしまう」「頭から角が生えてくる」などの根拠のない噂が広がり、一般には受け入れがたいものでした。

古河藩医の奮闘

古河も天然痘の猛威に幾度となくさらされてきました。そのため、杉田玄白に学んだ古河藩医河口祐卿や、その子の河口杏齋が古河に牛痘法を導入したと伝えられています。しかし、牛痘法の接種には、すでに紹介したような噂による不安が広がっていました。そのため河口祐卿は、多くの人が拒絶する牛痘法への誤解を取り除き、その安全性を伝える必要がありました。

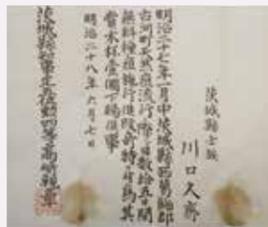
古河藩におけるその取り組みの始まりは、河口祐卿による家老小杉監物の子どもへの牛痘法による接種であったと伝えられています。これは安全性のアピールのためであり、このほかにも右ページ上の様な錦絵による啓発活動などを行うことで、多くの人の不安が少しずつ取り除かれていきました。

その後、古河町および藩領村にもオランダからの牛痘法が導入され、明治・大正・昭和を経て封じ込められていき、やがて撲滅に至ります。古河における天然痘との戦いは、このように河口祐卿、杏齋などの医療従事者たちによる多大な努力によって封じ込められたのです。そして、新型コロナウイルスの感染が広がる現在においても、多くの医療従事者の奮闘により私たちの生活が支えられているということを忘れてはいけないでしょう。

表彰状

明治27年正月ごろから古河町で流行した天然痘に対し、河口久齋(祐卿の次男)が無料で行った牛痘法の接種に対する茨城県知事からの表彰状

茨城県指定文化財 河口家蔵(古河歴史博物館寄託)



種痘道具一式

人の上腕部に専用の刀で傷を付けて牛痘苗を接種するための道具一式。河口家に伝来する種痘用具

茨城県指定文化財 河口家蔵(古河歴史博物館寄託)

